

平成23年3月1日発行

# 月刊 田中けん

第4期 vol.14 (通巻46号)

## 区議会「一人の会」無所属

タバコの煙でお悩みの方は、お気軽にご相談ください。

### ご案内

3月5日(土) 13:00~

自宅事務所にて茶話会を行います。  
気軽に田中けんとお話してください。(予約制)  
事前のご連絡をお待ちしております。

### 弁護士の無料相談を受付中

詳しくは、03-3248-0888 (平日9時~18時)まで

## 都青少年健全育成条例に反対する

子どもの性行為を描く漫画やアニメなど「2次元児童ポルノ」の規制を目的とした都青少年健全育成条例が可決した。この条例制定を強く後押しした石原都知事の背後には、どうしてもエロ・グロ出版物を規制対象にしたい警視庁の意向があり、警察権力の拡大・強化を狙う意図とも合致する。

警察は「青少年が2次元ポルノを目にすると、健全な育成に悪影響をもたらす」と考えている

ようだが、実際にそのような事実はない。また18歳未満が購入できない図書指定制度という販売規制が既にある。原作者や出版社などは、この都条例が制定されると、性も含めた表現の自由が著しく制約されるのではないかと心配し、反対していた。

結局は自民党も公明党も民主党も賛成した改正案に対して、田中けんが西洋絵画史を引用して、反対論を展開する。(参考文献: Wikipedia)

### ◆西洋絵画史の中で、裸婦画は批判され、どう扱われたのか

#### 【眠れるヴィーナス】

1510年、ルネッサンス期のイタリアの巨匠ジョルジョーネ『眠れるヴィーナス』は描かれた。この作品は、ただ一人の裸婦を主題に選んだことにより、絵画史上における大改革となった。今では近代美術の出発点であると考えられている作品である。



#### 【ガブリエル・デストレとその姉妹ビヤール公爵夫人とみなされる肖像】

#### 【鏡のヴィーナス】

1647年~1651年にかけて、ベラスケス『鏡のヴィーナス』は描かれた。これはベラスケスが描いた唯一現存する裸婦画である。

1914年には婦人参政権論者のカナダ人メアリ・リチャードソンによって切り付けられ損傷したが、すぐに修復された。1952年にインタビューに応じた犯人のリチャードソンは「ナショナル・ギャラリーを訪れた人々が、あの絵をいつまでも眺めているのが我慢できなかった」と語っている。

フェミニスト作家であるリンダ・ニードは「あの事件は、女性の裸体に対するフェミニスト特有の(敵対的)ものの見方の象徴となった。その意味で、あのような信念、行動がフェミニズムに対する一般的なイメージとして広く認知されるようになってしまった」と考察している。





## 【裸のマハ】

1797年～1800年頃に、ゴヤ『裸のマハ』は描かれた。マハ (maja) とは、「小粋なマドリッド娘」というスペイン語で人名ではない。これは西洋美術史上、初めて実在の女性の陰毛を描いた作品だとされている。これが問題視された。ゴヤは他人から依頼を受けて絵を描くことが多かったので、いったい誰が依頼したのか、ゴヤは何度か裁判所に呼ばれ問いただされた。結局、ゴヤが口を割ることはなかった。裁判の後、この作品はプラド美術館の地下に100年間も保存された。公開されたのは、1901年であった。



## ◎アングルが描いた裸婦画



【浴女】  
1808年



【グランド・オダリスク】  
(横たわるオダリスク) 1814年



【トルコ風呂】 1863年



【泉】 1856年

## 【草上の昼食】

1862年から1863年に、マネ「草上の昼食」(オルセー美術館所蔵)は描かれた。マネはこの作品で、「現実の裸婦」を描いた。サロンに出展するも、不道徳という理由から落選。同サロンに落選した作品を集めた落選展にも展示されたが、同様の理由で批判を受けた。作品の手前に描かれた3人は、男性2人が着衣であったのに対して、女性1人だけを裸のまま描いた。更に女性が脱いだ衣服を女性の手前に描くことによって、その場で衣服を脱いだ「現実の女体」を証明させ、この女体が神の姿ではないことを強調した。これが問題視された。

「草上の昼食」は、多大な影響を及ぼした。偉大な画家たちが、マネの影響を受け、同じ題名の作品を描いている。



マネ 1866年



セザンヌ 1875年



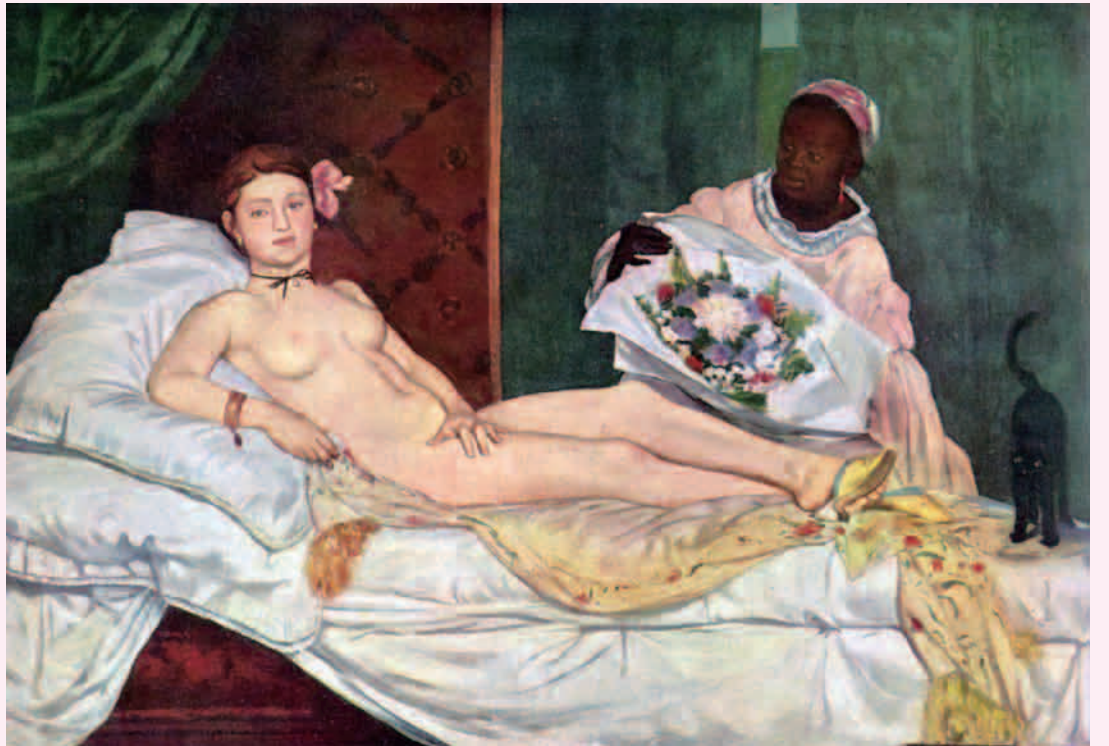
ピカソ 1962年



## 【オランピア】

同じく1863年、マネ『オランピア』は描かれた。この作品は『鏡のヴィーナス』のポーズを反転させて、天界の女神ではなく、本物の女性の裸婦画に置き換えて見せた。これまでの裸婦画は、その対象が、女神や架空の女性であったことで許されてきた。それに比べマネの描いた裸婦画は、現実の女性であったことが不道德だと見なされた。

パリ美術界は大きな衝撃を受けた。『鏡のヴィーナス』が鏡を通して鑑賞者を見ていたのに対して、『オランピア』は鑑賞者を直接見つめていたのだ。また「オランピア」が当時の娼婦の通称であったことも批判の理由となった。



## ◆破壊された裸婦画

17世紀のスペインでは裸婦画は公式に禁じられていた。裸婦画は異端審問所によって没収、塗りつぶされ、わいせつ、不道德な絵を描いたとみなされた画家は破門されるか、罰金あるいは一年間のスペイン追放といった処罰を受けた。

当時のフランスもスペインほど酷くはなかったが、裸婦画は論争の的になっていた。レオナルド・ダ・ヴィンチ『レダと白鳥』という作品はもうない。しかし、多くの模写が残っており、オリジナルがどういった絵画だったのかを、現代人でも知ることはできる。同様にミケランジェロ『レダと白鳥』も消滅してしまった。

「レダと白鳥」という題材は、男女の性交描写よりも、女性と白鳥の獣姦を描いた絵画のほうがまだ許されやすい16世紀の風潮によって広まった。当時の優れた画家たちは男女の性交描写を扱った版画『イ・モーディ』を発表した。それから数年後、ローマ教皇庁によって制作者の投獄、原版の破棄が命じられた。当時の芸術家たちにとって、男女の性交描写は危険な行為だった。ルネサンス期になっても、性交描写が危険な行為に変わりはない。

たとえ男女間でなくても、獣姦をテーマに描かれたダ・ヴィンチとミケランジェロの『レダと白鳥』は、どちらもフランス王家が所有していたときに失われている。絵画所有者の死後、残された道德心の強い未亡人あるいは絵画の相続人によって破棄されたものと考えられている。

「作品がない」この事実が、裸婦画や性交描写に対する当時の厳しい価値観を証明している。

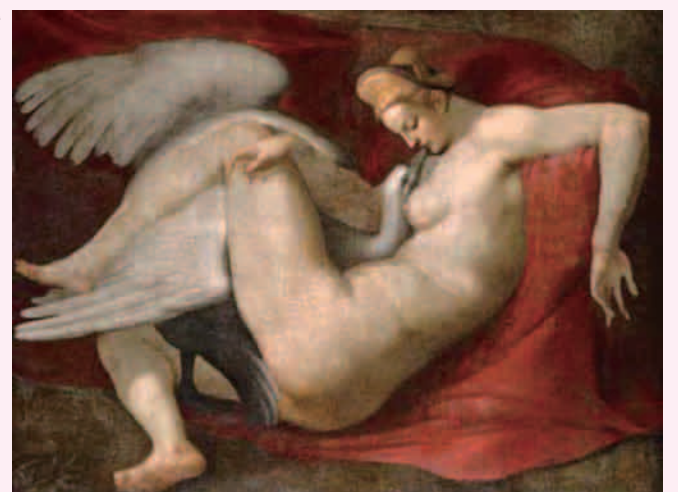
## 【レダと白鳥】

(オリジナルは現存しない。1515年から1520年、ダ・ヴィンチの弟子チェザーレ・ダ・セストによる模写がある)



## 【レダと白鳥】

(やはり現存していないミケランジェロの作品)





## ◆わいせつ物から芸術へ

今回紹介した“同時代では理解されなかった作品”は、鑑賞者に「異常な性的興奮」と「非常な不快感」を同時に感じさせたに違いない。

しかし、今やこれらの作品を批判する者など誰もいない。同時に鑑賞者で「異常な性的興奮」を感じる人も少なからう。

少しでも芸術史を学べば、政治史同様に、その歴史は権力や社会常識との戦いであった。つまり、当時はどんなにスキャンダラスで多くの批判にさらされた作品であっても、今や名画として高く評価されている作品は数多い。長い年月を経て、不道徳でスキャンダラスな作品が芸術へと変化していく。これこそが、戦いに勝利した芸術家たちが獲得した“新しい価値観”だ。歴史が証明する事実だ。

## ◆現代人である我々が、今できること

生きている芸術とは、“新しい価値観”の創造運動である。芸術でないものを芸術として認めさせようとする過程にこそ革新がある。価値観が定まらず、賛成反対が交差し、躍動感があふれるからこそその革新である。

皮肉なことに誰もが「芸術」だと認めた作品では、アングルがいう革新をもたらす“芸術”とは言えない。全ての人々が認めた時点で、かつて批判された作品も「芸術」という品行方正・人畜無害な古典に成り下がる。

批判されずに誕生する新しい価値観などはない。私たち人間は時代を超越した価値観を持ってない。17世紀のスペイン人が、現代の芸術を「不道徳」としか理解できなかつたように、我々の価値観は、長い時間経過による検証も受けられない。同時代を生きる現代人としてできることとは、権力や常識に屈することなく、100年後、200年後の芸術を見つけ出し、守り、応援していくことである。

芸術が理解できない警察のような公権力に、作品

の善し悪しなど論じられたくない。

西洋絵画史における裸婦画のように、都青少年育成条例によって弾圧されようとしている作品群の中にこそ、アングルがいう革新的な“芸術”が含まれているかもしれない。

今となつてはダ・ヴィンチとミケランジェロの作品が失われて現存しないなど、現代人の誰もが「なんて愚かなことを。なんてもったいないことを」と思うに違いない。それと同じ愚かなことを石原都政は、現在進行形で行おうとしている。今の東京都は17世紀のスペインと変わりない。この文化弾圧は、タリバンによる仏教美術の破壊にも等しい。

西欧は絵画。米国はハリウッド映画。そしてマンガとアニメこそが、世界が注目する日本の代表文化である。都条例による文化の自殺行為に対して、私たちがこのまま黙っているわけがない。現代人である我々こそが、芸術運動の主人公である。

「芸術は今革新を必要としている。私は革命家になりたい」

裸婦を描き続けたドミニク・アングル (1780-1867) の名言である。



【アングルの肖像画】

「絵画は、部屋を飾るためにつくられるのではない。画家（私）は古いもの、芸術を駄目にするものに対して絶えず闘争している」

これはパブロ・ピカソ (1881-1973) の言葉である。



【ピカソの写真】

高速道路の無料化

脱官僚・天下りの根絶

人口過密の解消



江戸川区  
議会議員

田中けん

自宅事務所 〒132-0021

江戸川区中央4-25-14

☎03-3248-0888 (平日9時~18時)

プロフィール

- 1966年 江戸川区生/松江三中卒 墨田川高校卒 千葉大学教育学部卒
- 1995年4月 江戸川区議会議員選挙 (2789票・41位)当選
- 1999年4月 同選挙 (4282票・16位)当選
- 2001年6月 東京都議会議員選挙 (12394票・8位)落選
- 2003年4月 江戸川区議会議員選挙 (4103票・15位)当選
- 2007年4月 同選挙 (3883票・25位)当選

禁煙地方議員連絡会代表幹事、ホームヘルパー2級、スペイン語を勉強中

www.t-ken.jp